

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設番号	66-1152
施設名	中目黒ちとせ保育園
施設所在地	目黒区上目黒2-10-9
法人名	社会福祉法人ちとせ交友会

1. 活動のテーマ

<テーマ>

からだ

<テーマの設定理由>

(テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など)

ダンス教室やリトミックなどを通して身体を動かす機会が多く、子どもたちは「楽しい」「またやりたい」と意欲的に参加しており、身体を動かすことへの強い興味・関心が感じられた。

その中で、遊びや活動の場面ではバランスを崩したり、転んだ際に手が出ない姿も見られたことから、様々な体験を通して、からだのしくみやバランス、体幹といったからだの使い方について、子どもたちと一緒に探究していきたいと考えた。

2. 活動スケジュール

・からだの使い方

令和7年11月～3月 トンネルをくぐる

令和7年2月～3月 ビリボで遊ぶ

・からだのしくみ

令和7年2月 魚の解体ショー・魚との触れ合い

魚釣り体験・水族館

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)

- ・記録としての写真を撮影するため、iPhoneを購入。
- ・身体の使い方を知るため、トンネルアーチを購入。
- ・魚に触れ合う機会を作るため、近隣で触れ合えるように魚を購入。
- ・お別れ遠足で八景島へ行く。バス代、入場料、魚釣り代
- ・身体の使い方を知るため、ビリボを購入。

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

【からだの使い方を知る】

・乳児クラスでは、トンネルをくぐる遊びを日常的に取り入れ、幼児クラスでは、ほかの遊具と組み合わせてサーキット運動遊びを行った。トンネルをくぐる遊びを通して、手をつく動作を体感できるようにした。

・主に乳児クラスにてビリボを取り入れ、バランス遊びを楽しんだ。中に座って子ども自身または保育者が揺らして遊ぶだけでなく、回す・被るなど多様な遊び方が見られた。

【からだのしくみを知る】

・魚屋によるキングサーモンの解体ショーを実施した。丸ごとのキングサーモンや解体していく様子、臓器などを間近で観察した。あわせて、イカ、アジ、イワシ、鯛、クロムツなどを用意し、実際に魚に触れる体験も取り入れた。

・魚の解体ショーの中で「この魚はどこから来たの？」という質問が子どもたちから出たことをきっかけに、5歳児のお別れ遠足として八景島シーパラダイスを訪れた。ギンザケの魚釣り体験や水族館見学、イルカショーなどを楽しみ、釣ったギンザケはその場でフライにして食べることができた。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

【からだの使い方を知る】

0歳児クラスでは、電車が好きな男の子が多く、トンネルをくぐると自身が電車のような気持ちになったようで「ブーパー」と言いながら、トンネル遊びをする様子が見られた。

また、ビリボと同じ色のカラーボールを準備して、ビリボの中にボールを入れるゲームをすると、一生涯ビリボにボールを投げる様子が見られ、また、ビリボの中に集めたボールをひっくり返して、遊ぶ姿もあり、「もう〜」と子ども同士でそのやりとりを何度も繰り返して、楽しむ姿が見られた。

ビリボとトンネルを使ったサーキット遊びをすると、「ここを通ると違う世界にワープするんだよ!」と子ども同士で話し合う姿が見られた。子どもたちで新しい世界観を作り、自分たちで楽しむ様子があった。

【からだのしくみを知る】

魚の解体ショーでは、丸ごとのキングサーモンを前に「大きい」「こわい」「すごい」と、普段食べている寿司の切り身との違いにまず驚いていた。サーモンはピンク色というイメージを持っていた子も多く、「サーモンってこんなの?」「ピンクじゃないんだ」といった声も聞かれたが、解体していき身の部分が現れると「おいしそう」「いいにおい」と反応が変わり、見え方や感じ方にも変化が見られた。

特に魚の顔(目・口・歯)に興味を示し、「歯がギザギザだね」「目はここにあるんだね」といった気づきや、エラを見て「エラで呼吸できるんだよ」と子ども同士で伝え合う姿も見られた。さらに、「なんで体の中が赤いの?」といった疑問も生まれていた。

また、「エラはどこにあるのかな」とイカやアジ等の魚に触れながら実際に確かめようとする子や、保育者がイカの軟骨を取り出して見せると、興味深そうに観察する子がいた。

活動後に、保育者から「いただきますは、命をいただくということなんだよ」と話をすると、その日の給食では「いただきますって大切だね」「残さず食べよう」「今まで食べた給食の中で一番おいしい」と、子ども同士や保育者との会話が広がった。

魚釣りでは、釣った魚の重さや動きに驚いたり、口に針が引っかかる様子に「痛そう」「かわいそう」と声をあげたりする子がいた。また、解体ショーでの体験を思い出して「これは小さいね」「からだの中身は何色なのかな?」と考える場面もあった。

水族館でホッキョクグマが氷の中を泳いでいる姿を見ると、「どうして魚じゃないのに、氷のなかにいられるんだろう?」と不思議に思う子もいた。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

(身体の使い方を知る)

トンネル遊びでは、子どもたち自身が電車になりきる姿があり、興味に沿った遊びを提案できたと感じる。またトンネル内をハイハイすることで、身体の支え方も学べているように感じた。転びそうになったときに自身の手で身体を支える姿もあり、遊びの中での成果を感じとることができた。

(からだの仕組みを知る)

子どもが身体を動かすことに興味をもっていった中で、動くとき「疲れる」ということに「なぜ？」という疑問が子どもから出て、身体の仕組みにテーマをもつていった。そこから魚の解体ショーや触れ合いといった中で、身体の中はどうなっているか？などを考えるきっかけになった。魚釣り体験でも釣った際に魚の口から「血」が出ているのを見ると、「可哀そう」という言葉があったり等、「命をいただく」ことについても改めて感じる姿があったように思う。